



GH1810 取扱説明書



0912-70001



取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。

本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。

取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)

株式会社 **オーレック**

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

はじめに

この度は本製品をお買い上げ頂き誠に有り難うございます。

信頼性の高い、なおかつ耐久性に優れたこの乗用芝刈機GH1810は、長期間使用して頂く為に特別に設計されたものです。

本製品を最良の状態に保ちより長く使用して頂く為に、この取扱説明書をよくお読み頂き、安全についての記載事項や整備・点検方法を十分に理解し作業にお役立て下さい。

優れた品質の商品を提供する為、常に製品の改良を試みております。その為お手元の製品と本書の内容に若干異なる場合があります。

技術に関する最新の情報は、弊社にご相談下さい。

本製品の機体番号は座席シート近くの、本体右側に貼付されています。ご用命の際には、この番号をお知らせ下さい。

本製品の規制について

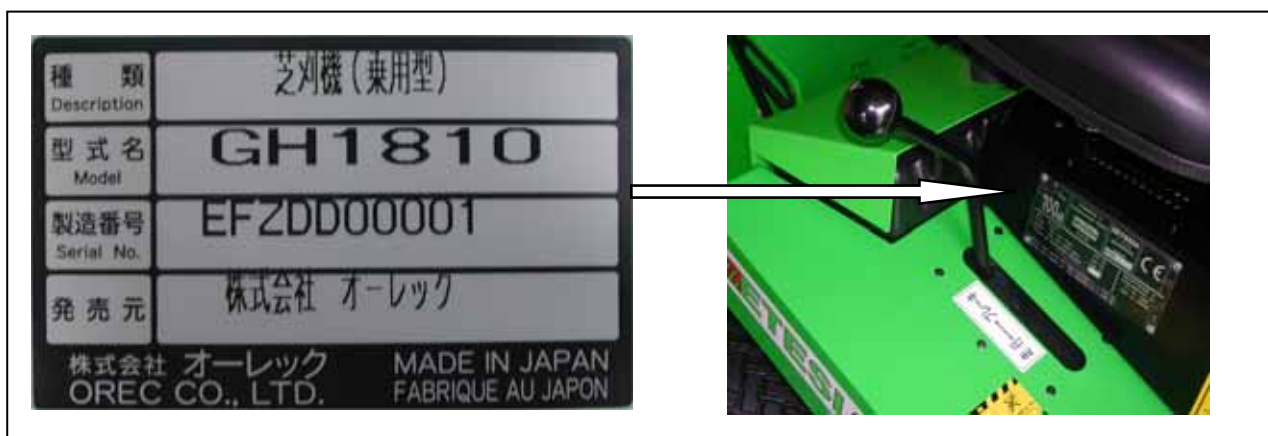
本製品は、芝地に於ける芝刈機として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。

この芝刈機は乗車定員一名です。また、道路及び一般交通に供するような場所(農道、林道等)では走行できません。車両ナンバーを取得する事も出来ません。

保証とサービスについて

本製品の保証期間は、購入後 1年間、又は50時間使用(業務用については6ヶ月間、又は50時間使用)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。

御使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関する御用命は、お買い上げた販売店又は、当社営業所までお気軽に御相談下さい。その際、「商品型式と製造番号、搭載エンジンの型式名」を併せて御連絡下さい。



「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様を超えた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

この製品の補修用部品の供給期限(期間)は、製造打ち切り後 9年と致します。但し、供給期限内であっても、特殊部品につきましては納期等について御相談させていただく場合もあります。又、供給期限経過後でも、部品供給の要請があった場合には納期及び価格について御相談させていただきます。

目次

1. 安全に作業をするために	1
2. 組立て要領書	5
3. ダッシュボードと操縦について	10
4. 使用にあたって	15
5. 刈取り部の整備について	21
6. エンジン部の整備について	26
7. トランスミッション部の整備について	29
8. 長期保管/冬季保管について	32
9. 仕様書	33
10. 定期点検について	34

1. 安全に作業をするために

本製品を使用する際には必ず次の指示に従って下さい。

- ・本説明書、あるいは通常の規則に従わなかった上での作業上の不備に関しては、当社は責任を負いませんのでご了承下さい。
- ・ご使用前に本体に貼付されている安全ラベルを必ずチェックし、よくお読み下さい。もし一つでもラベルが欠けていたら、すぐに販売店にお申し付け下さい。
- ・危険表示ラベル及び安全ラベルは絶対にはがさないで下さい。
- ・お使いになる前に、素早く機械を止められるよう操縦装置や作業上の指示を十分に理解しておいて下さい。
- ・機械や部品は常に最良の状態に保っておいて下さい。また欠陥のある部品を使ったり、安全装置を外しての作業は大変危険です。
- ・当社の了解なしに機械を改造しないで下さい。改造は大変危険で事故の原因となります。その際の事故については当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。
- ・エンジンスピードの調整機は整備しないで下さい。エンジンスピードの出しすぎは人身事故につながる恐れがあります。
- ・取扱説明書を読んでいない方は、機械を使用しないで下さい。もし人に機械を貸すときは、その人にも本書を読んでいただき理解した上で使用してもらって下さい。
- ・10度以上の勾配での傾斜地作業は行わないで下さい。傾斜面での作業に関しては後に指示している事項をお読み下さい。
- ・土手、くぼみ、又は地盤の弱い場所等機械が横転する恐れのある場所で作業しないで下さい。
- ・使用者は作業地内の人、動物等に十分に注意して下さい。
- ・エンジン作動中は人や動物を近くに寄せないで下さい。
- ・作業員以外の人を乗せないで下さい。
- ・16歳以下の子供に機械を運転させないで下さい。無人でエンジンが作動していることのないよう、短時間でも機械から離れる時はキーを抜いて、駐車ブレーキを入れて下さい。
- ・本製品を使用する前にナイフの状態をよく点検して下さい。
- ・機械の下に何か物がある場合や十分な安全確認をしないまま始動させないで下さい。
- ・草を刈る前に石や木片、缶等の障害物を取り除いて下さい。
- ・作業員がケガをしないよう、低木は退かしておいて下さい。
- ・ナイフでは切れない、或いはナイフに損傷を与えるような障害物、例えばコンクリートの柱、木の切り株等は避けて下さい。
- ・ナイフに衝撃を与え異常があった場合には必ず交換して下さい。
- ・方向転換する時には、十分に注意して運転して下さい。
- ・走行している際には一度に足を両ペダルに乗せないで下さい。
- ・本製品は車両を引っ張る為に設計されたものではありません。
- ・絶対に手や足を刈取デッキに置かないで下さい。
- ・作業中は、石やその他の異物が飛び散ることもありますので他人に当たらないように十分気を付けて下さい。
- ・刈取りは日中の明るい時、或いは照明が十分に明るい所で作業して下さい。

- ・公道での運転は出来ません。
- ・ゆったりした服や短いズボンは作業に適しません。
- ・足全体を覆う頑丈な靴を着用して下さい。
- ・エンジン及び作動する部品を点検する際にはエンジンを切り、キーを外し、点火プラグを抜いて下さい。
- ・疲労時、体調の悪い時、飲酒後、薬を服用した後は運転をしないで下さい。
- ・草の上で使わない時、例えば草地から草地への移動時は刈取デッキを一番高い位置に上げておいて下さい。
- ・エンジンを作動させている間は絶対に燃料タンクに注油しないで下さい。注油する前の2分間はエンジンを冷やしておいて下さい。
- ・使用する直前に購入した燃料を使って下さい。古い燃料を使うとキャブレター内にゴムの沈殿物が発生したり、エンジンがかかりにくくなります。ご使用の1ヶ月前までに必要量をお求め下さい。燃料は専用の容器の中に保存して下さい。

注意：燃料は引火性の高いものです。

- ・燃料を補充する時は、タバコを吸わないで下さい。
 - ・エンジンを作動する前に燃料を補充して下さい。
 - ・エンジンが作動しているとき又熱いときは燃料キャップを取らないで下さい。
 - ・燃料補充の際、タンクから溢れないようご注意下さい。注意したにもかかわらず、燃料が溢れた際には下記の点をご確認下さい。
 - a) 燃料で汚れた部品すべて念入りに清掃して下さい。
 - b) 溢れた燃料をすべて拭き取ったことを確認するまでは機械を始動させないで下さい。
 - ・燃料が漏れた時はエンジンを作動させないで下さい。そして本体をその場所から遠ざけ燃料から排出される物質を燃やさないように十分注意して下さい。
 - ・燃料タンク及びキャップは必ず元の正しい位置に戻して下さい。
 - ・裸火やストーブ、種火のついた湯沸かし器または発火作用のある物体の近くでは絶対に燃料を保管したり注いだり使用したりしないで下さい。
-
- ・狭い場所でエンジンを始動させないで下さい。排気ガスは無臭の一酸化炭素を含んでおり、場合によっては死亡の可能性があります。
 - ・異臭を感じたときはエンジンを始動させないで下さい。爆発の恐れがあります。
 - ・マフラーのない状態でエンジンを動かさないで下さい。マフラーは定期的に点検し、必要があれば交換して下さい。
 - ・マフラーやエンジン周辺は定期的に掃除して、草や他の可燃性物質が蓄積するのを防いで下さい。
 - ・荷物を牽引したり、重い物を扱う際には、次の点にご注意ください。
 - *2点で連結させる専用の牽引装置をご使用ください。
 - *安全に扱うことのできる荷物に限りご使用ください。
 - *進行方向を変える場合、障害物に接触しないよう十分ご注意ください。
 - ・公道では使用しないでください。

以上の注意事項は安全に作業する為に極めて重要であります。完全なものではなくお客様自身の十分な理解と注意が必要です。乗用芝刈機に関する法的事項は、必ず守らなければなりません。

メンテナンスと保管について

- ・本体とその他アクセサリは、最善な状態で保管してください。
- ・安全装置の取り外し同様、維持と清掃はエンジンが停止しているときに行なってください。その際、点火キーを外すことを忘れないでください。
- ・燃料タンクに燃料を入れたまま本体を保管しないでください。燃料が火や火花に接して発火する恐れがあります。
- ・閉め切った場所に本体を保管する際には、事前にエンジンを冷ましてください。
*火災の危険を減らすため、エンジン、マフラー、バッテリー周辺と燃料タンク周辺からは、草や葉、余分な油を取り除いてください。

警告！ 本体には左右2枚のナイフが備わっており、1本のナイフが他のナイフと連動して回転します。

責任

- ・この取扱説明書にある指示には従ってください。お問合せは販売店までお尋ねください。
- ・これらの指示や規定に反した場合、一切の責任を負いません。
- ・許可なく本体に改造を加えないでください。許可のない改造は、本体に悪影響を及ぼし、ご使用中に事故につながる恐れがあります。
- ・私どもはこれからも製品の改善に努めます。そのため、事前に通知することなく現行モデルの仕様を変更することもあります。

定義とシンボルマークについて

本説明書では危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークが持つ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。



危険 ・その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告 ・その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

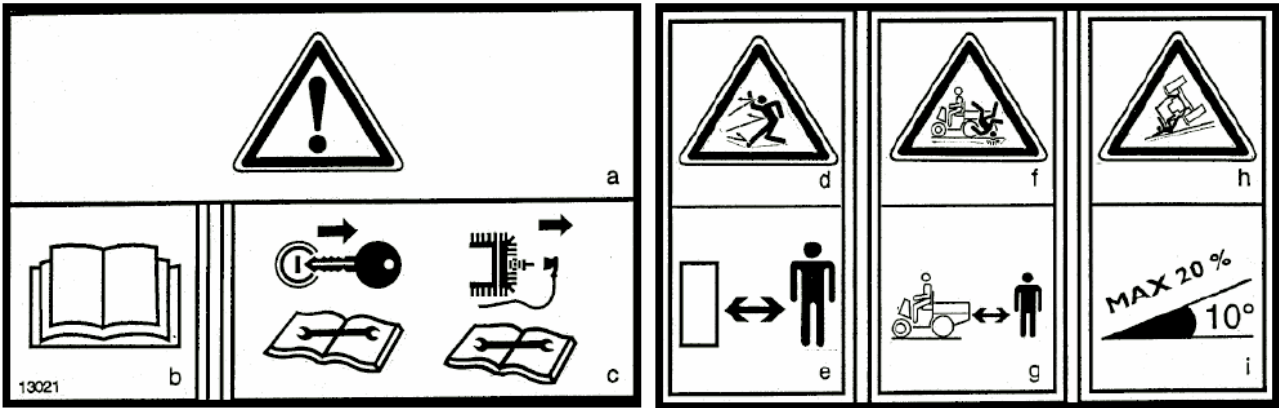


注意 ・その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものを示します。

ラベルについて

- ・本製品には様々なラベルが貼付されています。
- ・すべてのラベルが貼られているかを確認して下さい。
- ・背景が黄色のラベルは危険に関する事項を示しています。
- ・その他のラベルは作業時における指示事項を示しています。
- ・ラベルA・B・Cは危険表示です。

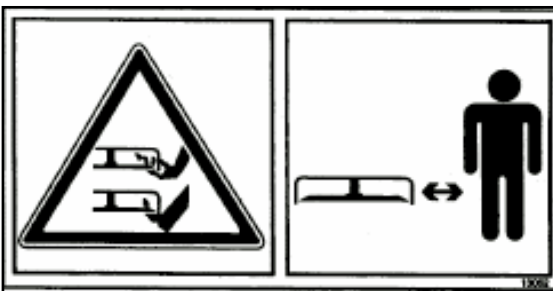
Planche A - Block A - Rectangle A



安全ラベル

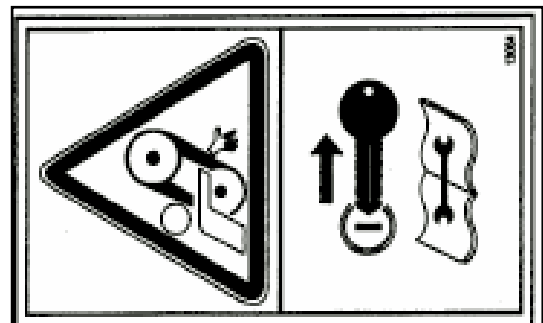
- ・ a = 注意！
- ・ b = ご使用の前に、取扱説明書にある安全と整備についての注意書きを読み、守ってください。
- ・ c = エンジンを止め、スパークプラグを抜いてからキーを抜いてください。
- ・ d = 飛散物の危険
- ・ e = 危険地帯への第三者の侵入を避ける
- ・ f = 人を乗せない
- ・ g = 機械に第三者を近づけない
- ・ h = 転倒の危険
- ・ i = 10度以上の斜面では使用しない

Planche B - Block B - Rectangle B



- ・ 手や足を切断する危険
- ・ 機械に第三者を近づけない

Planche C - Block C - Rectangle C

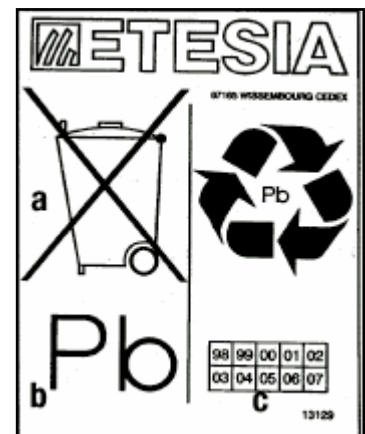


- ・ 手を切る危険あり。部品やベルト作動中。
- ・ エンジンスイッチを切り、点火キーを抜いてメンテナンス作業を行って下さい。

Marquage des accumulateurs
Kennzeichnung der Akkumulatoren
Marking of accumulators

蓄電池マーク

- ・ a = 販売店へ戻していただいた方がいい危険物を示しています。
- ・ b = 「Pb」とは、カドミウムや鉛を意味します。
- ・ c = 本体をご購入いただいた年を示しています。



2. 組立て要領書

・下記の図を参考に次の順で組み立てて下さい。

木枠開梱状態



前輪取付け方法

・フロント牽引用フックをロープ等で吊り上げ前輪座金、安全ピン、ホイールキャップの順で取付けて下さい。



ハンドル取付け方法

・ハンドルを右図のように取付けナットを締め込みキャップを取付けて下さい。



シート取付け方法

・センターカバーのサイドのフックを解除しカバーを開けてください。
・シートを矢印方向からスライドさせ取付けを行って下さい。



フロントボンネット開閉方法

- ・キースイッチに付いている専用金具でフロントボンネットのロックを解除しカバーの開閉を行って下さい。



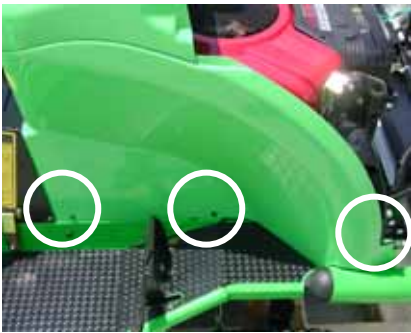
バッテリー取付け方法

- ・フロントボンネットを開け、サイドフード左右を取外して下さい。
- ・バッテリークランプロッドを緩めて、バッテリーを取外し付属のバッテリー電解液をレベル上限まで注入して下さい。
- ・バッテリーコードのプラス極(赤色)を先に取り付け、マイナス極を後から取付けて下さい。
- ・バッテリー液ブリーザーホースを右図のように取付けて下さい。
(取付けボルト、ホースは、付属工具に同梱)

⚠ 注意！ バッテリー液が本機に漏れると、腐食の原因となりますので十分注意して下さい。



サイドフード、ダッシュボードの取付け方法

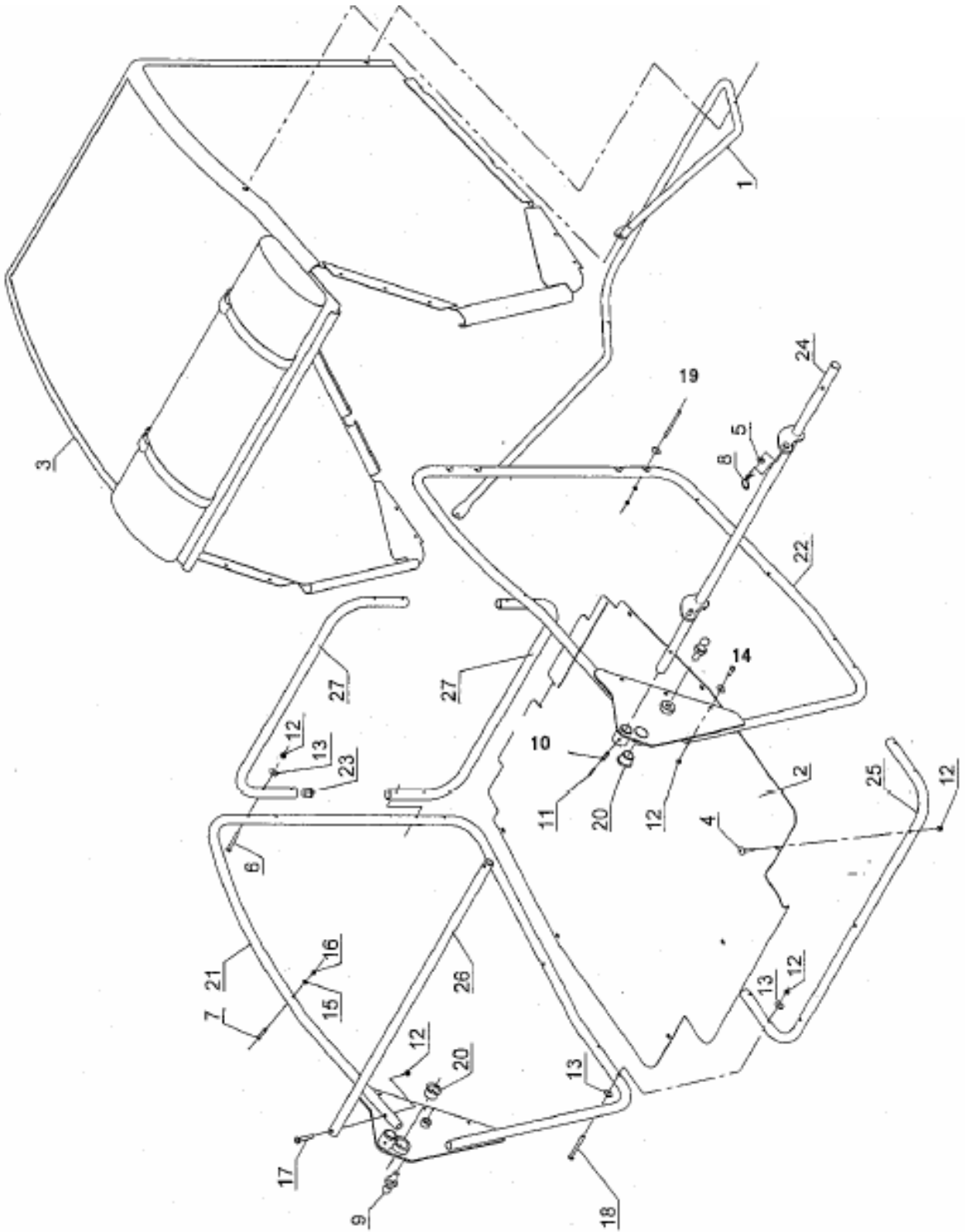


- ・各図にある丸印のネジを締め、カバー類を取付けて下さい。
(ネジ類は付属工具に同梱)



集草バッグ組立て方法

・下記の図を参考に次の順で組み立てて下さい。



番号	部品番号	部 品 名	備 考
1	88-1080-027092	バッグサイドフレームパイプ	
2	88-0912-032056	シュウソウバッグソコイタ	
3	88-0912-032058	グラスバッグ	
4	88-0912-001506	+シアナツキホルト M6*30	
5	88-1080-007335	ヒラサガネ 8	
6	88-0912-020571	+シアナツキホルト M6*50	
7	88-0912-020587	+シアナツキサラホルト M5*40	
8	88-1080-027066	Rピン	
9	88-0912-029929	ユアツシリンダーニップル	
10	88-1080-071013	スプリングロールピン 6*30	
11	88-1080-071014	スプリングロールピン 3.5*30	
12	88-1081-071073	フニロンナット M6	
13	88-1081-071096	ヒラサガネ 6	
14	88-1080-071106	+アタマホルト M6*16	
15	88-0912-071305	ヒラサガネ 5	
16	88-0912-071308	フニロンナット M5	
17	88-0912-071337	ロックホルト M6*45	
18	88-0912-071358	+シアナツキホルト M6*60	
19	88-0912-071392	+シアナツキホルト M5*70	
20	88-1080-025416	スリーブPA66 26/20*20	
21	88-0912-032062	バッグサイドフレーム (R)	
22	88-0912-032063	バッグサイドフレーム (L)	
23	88-0912-032071	フレームパイプキャップ	
24	88-1080-026831	バッグシャフト	
25	88-0912-032050	バッグシャフト	
26	88-0912-032060	バッグフロントバー	
27	88-0912-032061	バッグクロスバー	

集草バッグ組立て手順

- 1) フレームパイプキャップ²³を打込んで下さい。
- 2) 部品番号²⁴のシャフトを^{21, 22}サイドフレームに挿し込み、ロールピン^{10, 11}の順で金槌等で打ち込みシャフトを固定して下さい。(シャフト、サイドフレームの向きに間違いがないように注意して下さい)
- 3) バッグフロントバー²⁶を^{12, 17}のボルト、ナットで締付け固定して下さい。
- 4) バッグクロスバー²⁷を^{6, 12, 13}のボルト、ナット、ワッシャーで締付け固定して下さい。
注意: 下部のクロスバーは上部の方のみ締付けて下さい
- 5) 集草バッグ ³をバッグフレームに取付け、フック部をフレームにしっかり固定させて下さい。
- 6) バッグフロントクロスバー²⁵を^{12, 13, 18}のボルト、ナット、ワッシャーで締付け固定して下さい。
- 7) バッグサイドフレームパイプ ¹を^{19, 15, 16}のボルト、ナット、ワッシャーで締付け固定して下さい。次に^{7, 15, 16}を締付け固定して下さい。
- 8) ボルト¹⁴にて集草バッグ左右を固定して下さい。
- 9) 底板 ²を挿し込み^{4, 12}のボルト、ナットで締付け固定して下さい。
- 10) シリンダーニップル ⁹を締付けて下さい。

ステッカー貼付位置



公道乗車禁止

シート後方へ

エンジン始動の前に
エンジンが始動するのは、下記の時だけです。

- シートに完全にすわっている。
- ハンドブレーキが、かかっている。
- フットペダルが中立になっている。
- 刈取装置のスイッチが入っていない。
- 刈草バッグが完全に下がっている。



HST用オイル
容量：8 L
SAE20W20
SAE20W

刈草バッグ
上がる ←→ 下がる

刈高さ調整レバー



注意
このカバーなしの作業は危険です。
安全の為、運転時には必ずこのカバーを取り付けて下さい。



注意
安全の為、取扱説明書を熟読の上、内容を十分に理解して御使用下さい。



コントロールパネルへ



機番
走行 ←→ ブレーキ



注意
このカバーなしの作業は危険です。
安全の為、運転時には必ずこのカバーを取り付けて下さい。



3. ダッシュボードと操縦について

各部の名称



イグニッションキースイッチ

ナイフスイッチ

ライト & ブザースイッチ

スロットルレバー

オイルランプ

アワーメーター

チョークレバー

シグナルスイッチ

ハザードランプスイッチ

燃料ゲージ & キャップ

ハンドブレーキレバー

走行ペダル

刈高調節レバー

集草バッグ上下レバー

座席シート

各部のはたらき

イグニッションキー



- 0: エンジン「切」・ パワースイッチ「切」
- 1: パワースイッチ「入」
- 2: エンジン始動

・イグニッションキーには3位置あります。

エンジンを「始動」・「入」・「切」するために操作します。

⚠ 注意! ・エンジンを作動させる前に、安全についての説明をよくお読み下さい。

・エンジンを止めた後、イグニッションキーを「1」の位置にしておくとおアワメーターが回転し続けバッテリーの消耗原因となります。

ナイフスイッチ



：ナイフスイッチ「入」 …… ナイフ回転

：ナイフスイッチ「切」 …… ナイフ停止

・ナイフの回転を「入」・「切」させるために操作します。

ライト & ブザースイッチ



- ・ヘッドライトを点灯 ・ 消灯するために操作します。
- ・回転スイッチを回しライトの切り替えを行ってください。
- ・スイッチを押すとブザーが鳴ります。

スロットルレバー

・エンジンの回転数を調整するために操作します。



「MAXI」:高回転 …… 刈取り作業時

「MINI」:低回転 …… アイドリング時

・エンジンを停止させる時は、「MINI」の位置にしてください。

オイルランプ : エンジンオイルの量が規定量入っていない場合、消耗して規定量以下になった場合にランプが点灯し点検を知らせるものです。



イグニッションキーを「入」の状態にした状態で点灯し、エンジン始動後消灯します。エンジン始動後にランプが点灯している場合は速やかにエンジンを停止させオイル量をチェックし、必要に応じて注油、交換を行ってください。万一、オイルが適量入っているにも関わらずオイルランプが消灯しない場合は販売店へご相談下さい。

アワメーター : エンジンの作動時間とエンジン回転数を表示するものです。

エンジンが停止していてもイグニッションキーが「入」の状態にあるとアワメーターは積算し続けます。



参考:

- ・50時間毎にエンジンオイル交換を知らせる表示が出ます(2時間)
- ・300時間毎にオイルフィルターの交換を知らせる表示が出ます(2時間)

チョークレバー : エンジン始動時にエンジンが冷えている、始動しにくい場合に使用するものです。



- ・エンジン始動時にレバーを引き出した状態でエンジンを始動し、始動後に元の位置へ戻して下さい。
- ・エンジンが暖まっている場合、又は気温が高い時にはなるべく使用せずに始動して下さい。

シグナルスイッチ : 旋回方向を示すためのものです。



ハザードランプスイッチ : 本機作動中の駐車を示すためのものです。



燃料ゲージ : 燃料タンク内の燃料の量を表示するものです。

- 「E」 : 燃料が空の状態
- 「F」 : 燃料が満タンの状態



ハンドブレーキレバー : 駐車ブレーキ



- ・駐車時には後ろ方向にレバーがロックするまで引いてください。(左図位置)
- ・解除する時は前方向へ倒してください。(走行時)



警告! 運転席を離れる場合は必ず駐車ブレーキをかけてください。



注意! ハンドブレーキが駐車位置でないとエンジンは始動しません。

走行ペダル : 本機を前進・後進させるために使用します。



右側 : 前進

左側 : 後進

速度はペダルの踏み込み具合により調節します。ペダルを深く踏み込めば速度は増速します。ペダルより足を離せば停止(ニュートラル位置)します。



警告! ペダルより足を離せば本機は停止しますが、ブレーキはかかっていません。よって、傾斜地等での操作は十分注意して下さい。



注意! 走行ペダルを踏んだ状態でエンジンを始動すると安全スイッチの作動によりエンジンがかかりません。駐車ブレーキを解除しないでペダルを踏むとエンジンが停止します。

刈高調節レバー : 刈取り高さを調整するものです。



レバー先端のボタンを押した状態でレバーを上下させ所定の高さに合わせてボタンを解除すれば固定されます。



注意! 移動走行時には、刈取り高さを最上位置にしてください。刈取り高さは地面の条件により表示されている数値と異なる場合があります。

集草バッグ上下レバー : 集草バッグの排出上下をするために操作します。

- ・レバーを「上がる」側へ倒せばバッグが持ち上がりバッグ内の草を排出する事ができます。
- ・レバーを「下がる」側へ倒せばバッグが下がり通常の草刈状態に戻ります。



注意! ナイフ回転中にバッグを持ち上げると自動的にナイフの回転が停止します。草を排出後バッグを草刈状態にするとナイフは自動的に回転し始めます。バッグが完全に閉じた状態でないとナイフは回転しません。

座席シート

本機の座席シートは、スライド式になっています。座席右側のレバーを押し下げて希望の位置へスライドさせ固定することができます。

- ・清掃しやすいように、シートは前屈します。



ヒューズボックス

- ・ヒューズはダッシュボード下の左側にあり、エンジンカバーを開けると確認できます。
- ・ヒューズは4ヶあり、向かって左側より . . . となります。

- ヒューズ : 25 A (オイルランプとライトの点検)
- ヒューズ : 25 A (ブレードクラッチリレーの調整)
- ヒューズ : 25 A (エンジン・バッテリーチャージ回路)
- ヒューズ : 7.5 A (電磁ブレードクラッチ)



付属工具

本機には下記の工具が付属工具として付いています。

- ・プラグレンチ
- ・スパナ (8-10mm)
- ・スパナ (13-17mm)
- ・シャーボルトセット(8ヶ)
- ・17mm レンチ

4. 使用にあたって

安全スイッチに関して

本機には5つの安全スイッチが装備されています。

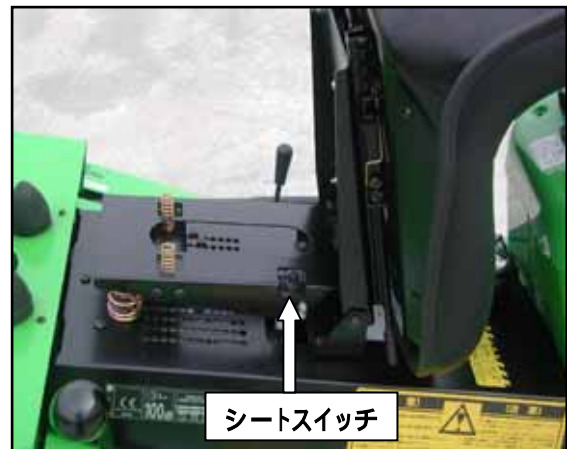
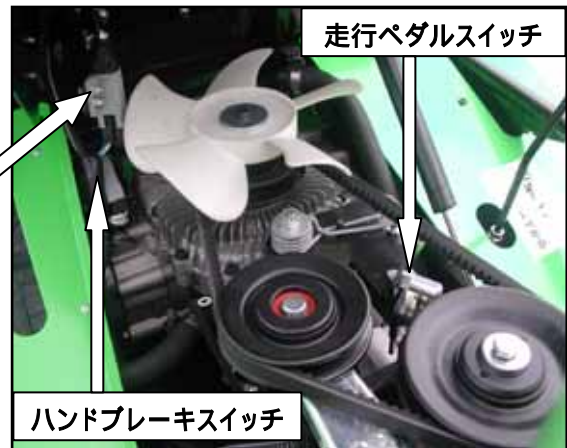
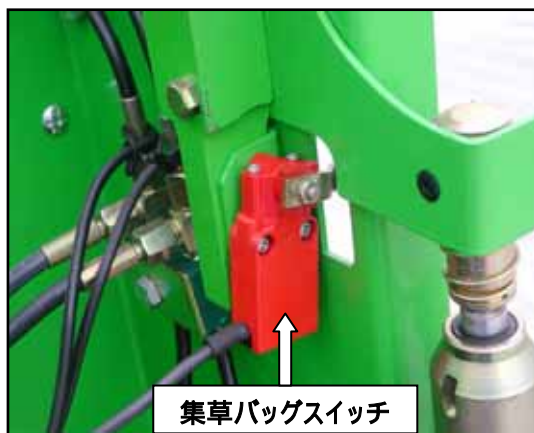
走行ペダルスイッチ(ニュートラルスイッチ)

シートスイッチ

集草バッグスイッチ

ハンドブレーキスイッチ

座席ボンネットスイッチ



1. 本機のエンジンが始動するのは以下の状態の時のみです。
 - ・ハンドブレーキが「入」ブレーキの状態。
 - ・走行ペダルが中立になっている時。
 - *走行ペダルを踏んでいるとエンジンは始動しません。
 - ・ナイフスイッチが「切」の状態になっている時。
 - ・座席ボンネットが閉まっている時。
2. 本機は安全のため使用中に以下の状態になると安全スイッチが働きエンジンが自動的に停止します。
 - ・ナイフスイッチが「入」の状態にてシートより離れた場合。
 - ・ハンドブレーキレバーが「切」の走行状態にてシートより離れた場合。
 - ・ハンドブレーキが「入」のブレーキ状態で走行ペダルを踏み込んだ場合。
3. 本機エンジン始動後、刈取り装置が作動するのは以下の状態の時のみです。
 - ・集草バッグが完全に下がっている状態(作業)。
 - ・操縦者がきちんとシートに座っている状態。

⚠ 注意! ナイフ回転中(刈取り装置作動中)後部の集草バッグを持ち上げると安全装置が作動しナイフ回転停止(刈取り装置停止)します。その後、集草バッグを完全に下げると再度ナイフは回転(刈取り装置作動)を開始します。

タイヤ空気圧に関して

警告! タイヤの空気圧は常に推奨の気圧を維持して下さい。さもないと、本機の走行やハンドル操作に悪影響を及ぼします。

タイヤ空気圧	前輪	1.2 bar (0.0825 psi)	1.2 kg/cm ² (気圧)
	後輪	0.8 bar (0.0550 psi)	0.8 kg/cm ² (気圧)

エンジン始動の前に

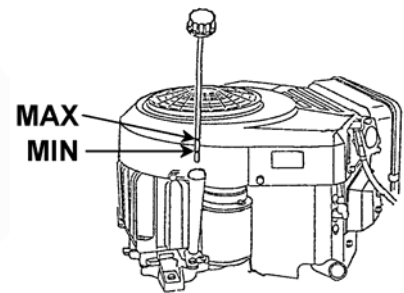
- ・操縦者及び機械の使用準備が出来ましたら、エンジン始動前に再度各オイルの量及び燃料を確認して下さい。
- ・全ての安全ラベルが本機に貼付されているかの確認と、「安全に作業をするために」を御熟読下さい。

オイルの確認

1. エンジンオイルを確認して下さい。 給油栓がオイルゲージを兼用しています。
 - ・オイルゲージの「ADD」から「FULL」の間になれば「FULL」の目盛りまでオイルを補給して下さい。

- 注意!** オイルの量は、オイルゲージを完全に締めこんだ状態で確認して下さい。
- ・オイルを多く入れ過ぎないように、注意が必要です。エンジン故障の原因となります。
 - ・使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使いわけて下さい。

夏季(10度 以上) ---- SAE30・SAE10W30・SAE40
冬季(10度 以下) ---- SAE5W20・SAE10W-30



2. HSTオイルを確認して下さい。 HSTオイルタンクはシートの後ろ側にあります。

- ・使用前後にゲージにてオイルレベルを確認して下さい。
ゲージの上(緑)と下(赤)の目盛りの間になればオイルが付くようにオイルを補給して下さい。
- ・使用するHSTオイルは下記と同等の物を御使用下さい。
SAE20W20・SAE20・SAE30 タンク容量は 8 Lです。
純正オイルSAE20W20 2L補充用をお奨めします。
品番: 88 - 1080 - 026785 HSTオイル2L



- 警告!** ・HSTの油圧オイルは高温になります。オイル漏れが発生した場合、高温オイルが肌にあたると火傷などの重症を負いかねません。オイル漏れには十分御注意下さい。
- ・本機使用後はタンクキャップを開ける前にオイルを冷やして下さい。

- 注意!** ・オイルタンクに不純物が混入しないようにタンクキャップの周囲はこまめに清掃して下さい。

HSTミッションバイパス回路

本機は油圧駆動による無断変速ミッションを搭載しています。ミッションは座席下のセンターカバー内にあります。

警告！ 座席下のセンターカバーを開ける前にはエンジンを停止し必ずキースイッチを抜いて下さい。エンジン作動中はセンターカバー内にあるベルトやプーリーが回転しており巻き込まれる恐れがあり大変危険です。

注意！ バイパスが「0」位置の場合、エンジンを作動させないで下さい。

このHSTミッションは、エンジンが始動していない時は作動しません。整備等でエンジンを始動せずに本機を動かす場合には「バイパス」を利用して手動で動かす事ができます。

- ・バイパスレバーが「1」の位置---通常の作業時
- ・バイパスレバーが「0」の位置---バイパス回路が開き手動移動可能です。



燃料

- ・燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
- ・燃料ゲージが「E」に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- ・補給後はタンクキャップを確実に締めて下さい。
- ・タンク給油口すれすれまで入れますと、使用中に燃料がこぼれる可能性がありますので給油口に油面が来ない程度に補給して下さい。



- 危険！** 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンの作動中、エンジンやマフラーが熱い場合には給油しないで下さい。
 - ・給油中は、火気厳禁にて裸火やタバコの火等が近くに無いことを確認して下さい。
 - ・燃料タンクに給油している際に注意したにも関わらず溢れた場合には
 - a) 燃料で汚れた箇所を全てきれいにして下さい。
 - b) 溢れた燃料を全て拭取った事を確認できるまでは、決して本機を作動させないで下さい。
 - ・給油する際は、閉め切った場所で行わないで下さい。屋外または風通しの良い場所で行って下さい。

注意！ 添加物やガソリンとアルコールの混合物は使用しないで下さい。

エンジンの始動

⚠ 警告！ 始動する前にもう一度、「安全に作業をするために」の項をよく読んで下さい。

- ・ナイフスイッチが「切」になっているか確認して下さい。
- ・シートに着席し、作業しやすい位置へシートをスライドさせて下さい。
- ・駐車ブレーキを「入」にします。
- ・ペダルを踏まないようにして下さい。
- ・エンジンが冷えているときはチョークレバーを引きスロットルレバーを「MAXI」の位置に、熱くなっているときはチョークレバーを引かずに「MAXI」の位置にして下さい。
- ・キーを始動の位置に回します。
- ・エンジンが始動したらキーから手を外し、スロットルレバーを「MAXI」と「MINI」の間に動かして下さい。(チョークを引いている場合は戻して下さい)

⚠ 危険！ 閉め切った室内でエンジンを作動させないで下さい。

排気ガスは有害です。閉め切った室内でエンジンを作動させると排気ガスで空気が汚染されガス中毒をおこす恐れがあります。(換気には十分注意して下さい)

⚠ 注意！ ・1回で始動せず再始動をする際、フライホイールが止まっていることを必ず確認の上再始動して下さい。

- ・セルモーターは5秒以上連続して使用しないで下さい。
- ・始動する際、キャブレターの下からガソリンが漏れる場合は、オーバーチョークです。チョークを戻してキースイッチを回して下さい。

エンジンの停止

- ・ナイフスイッチを「切」にして下さい。
 - ・スロットルレバーを「MINI」の位置にして下さい。
 - ・駐車ブレーキを「入」にして下さい。
 - ・キースイッチを「0」の位置に回してエンジンを停止させて下さい。
- エンジンを停止させる時に、誤ってキースイッチを「始動」側へ回さないで下さい。

⚠ 警告！ 機械を使わない時や機械から離れる時には、必ずキーを抜いておいて下さい。

芝刈り機の運転の仕方

⚠ 注意！ エンジン始動の前にバイパスレバーが「1」の作業位置にあるかを確認して下さい。

- ・エンジンを始動させて下さい。「エンジンの始動」の項を参照下さい。
- ・駐車ブレーキレバーを解除して下さい。
- ・前進(右側)、後進(左側)ペダルをゆっくりと踏み込むと本機は走行を始めます。
走行速度の調整はペダルの踏み込み加減によって調節して下さい。
大きく踏み込めば走行速度は速くなり、ペダルから足を外せば走行はゆっくりと停止します。

⚠ 警告！ 機械を素早く止める為には、ペダルから足を離し、駐車ブレーキをかけて下さい。

- ・駐車ブレーキをかけている間にどちらかのペダルを踏むとエンジンを停止させる原因となります。

⚠ 注意！ 走行速度は芝の刈取りに大きく影響します。

- ・芝の質、長さに応じてスピードを調整して下さい。
- ・芝を刈る際は、常にエンジン回転速度を全開にして下さい。
- ・ナイフの回転速度を遅くした場合、或いは負担のかけすぎによりナイフの回転速度がおちた場合は芝をきれいに刈ることが出来ません。
- ・長い草を刈っている時や傾斜面で刈っている時にエンジン回転がおちる場合は、ペダルを強く踏むのではなく速度をおとして下さい。ペダルはエンジン回転を調整するものではなく、又アクセルとして使用することも出来ません。
- ・エンジン回転数が常に最高回転を維持するように走行速度を調整して下さい。

傾斜面の運転の仕方

- ・この芝刈り機は約10度までの傾斜面で使用することが出来ます。
- ・芝刈り機を最良の状態ですって頂くために、傾斜面ではゆっくり運転して下さい。また、斜面で方向を変える時は減速して十分注意をはらって運転して下さい。

刈高の調整方法

- ・刈高さ調整レバー先端のボタンを押した状態でレバーを上下させ所定の位置にて先端ボタンを解除すると刈高が固定されます。
(本機は6段階に刈高調整できます)
- ・芝が長い場合や湿っている場合は、刈高を高くして使用して下さい。
(刈高位置 : 4 ・ 5 ・ 6 にて)
- ・芝を短く切る場合及び整備された芝地を刈る場合は、刈高を低くして下さい。(刈高位置 : 1 ・ 2 ・ 3 にて)



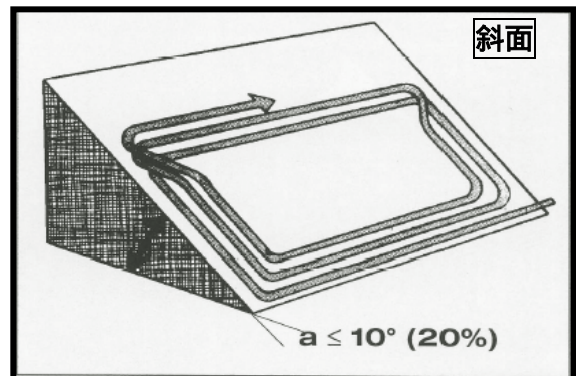
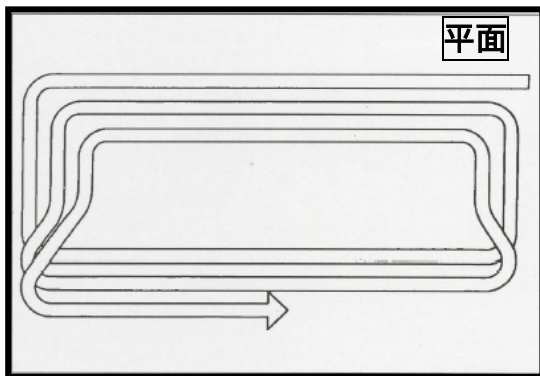
芝刈りの仕方

- ・芝刈り作業を始める前に、ナイフの状態及びナイフ取付けボルト、シャーボルトが確実に締まっているかを確認して下さい。(「刈取り部の整備」 21ページ参照)
又、後部集草ダクト部に異物等が残っていないか確認して下さい。
- ・均一な芝刈り跡にするために前、後輪の空気圧を規定圧にして下さい。「タイヤ空気圧」 16ページ参照
- ・刈高を低くして刈る場合は、刈り芝を効率よく集草するために最低速にて走行して下さい。

⚠ 注意！ 長い芝を一度に最低刈高で作業した場合、エンジン及びナイフに過負荷が生じ集草能力が低下します。この場合、集草ダクトの詰まりが発生し作業が思うように出来なくなります。

参考： このような場合は、一度で仕上げず二度刈りした方が作業効率が上がります。
エンジン回転数が常に最高回転を維持するように走行速度を調整して下さい。

- ・広範囲の芝や傾斜地を刈るときは、下図のように運転するのが最適の方法です。
- ・この方法により急な方向転換や、無駄な動きを避けることができます。
- ・集草バッグを空にするには：
 - 1) シートの左側にある排出レバーを作動させると集草バッグは空になります。
 - 2) 排出レバーを上げて集草バッグを元の位置に戻す前に機体をゆっくりと前方に動かして下さい。
- ・芝を刈った後、より効率的に集草するためには、あらかじめ草の収集場所を決め数箇所に山をつくるのが良いでしょう。
- ・集草バッグを排出する作業は容易で簡単にできるので、完全にいっぱいにする必要はありません。たとえいっぱいでも収集場所に近づいた時に集草バッグを空にすれば無駄な道のりを防げます。



5. 刈取り部の整備

▲警告！ 整備を行う前にエンジンスイッチを切り、キーを抜いて下さい。又、手の保護のために作業用手袋等を着用して下さい。

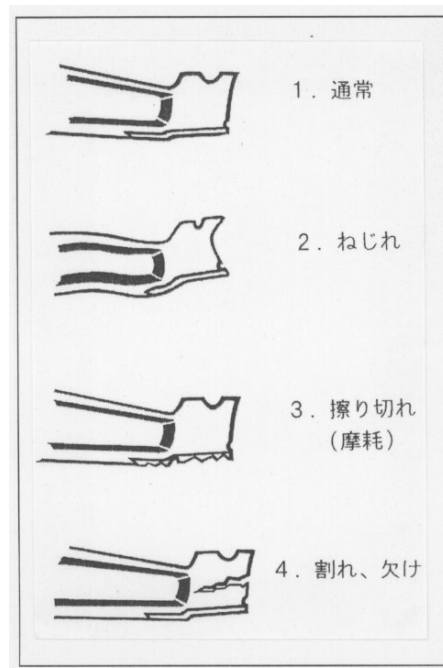
必要な工具や知識をお持ちで無い場合は、購入された販売店へ連絡して下さい。

ナイフの状態

・本機使用前にナイフの状態を確認して下さい。

(破損、欠け、極端に消耗していないか)

- ・ナイフの刃先が丸くなり切れにくくなっていたり、ナイフがねじれたりしていますと、刈取りや集草性能に悪影響を与えます。又、破損したナイフを使用しますと破損箇所が広がり亀裂などが発生し、刈取り部より破損部が飛び出す恐れがあり大変危険です。至急ナイフを交換して下さい。(右図 2. 3. 4. の場合)
- ・極端に摩耗しておらず、傷もついていないのに切れ味が悪い時はナイフを研ぎ直して下さい。その際、研ぎしろがナイフ側面のリミットマーク(くぼみ)以上になる場合はナイフを交換して下さい。
- ・ナイフ取付けブラケットの状態を確認して下さい。(ナイフが水平に回転しているかを確認して下さい)
- ・ナイフ部に異常が感じられましたら、ナイフ以外のシャーボルト、ベアリング、刈取りデッキ等を詳しく点検して下さい。



ナイフ、取付けボルト、シャーボルトの整備

▲警告！ 整備を行う前にエンジンスイッチを切り、キーを抜いて下さい。又、手の保護のために作業用手袋等を着用して下さい。

- ・刈取り部に付いている集草バッグ、ダクトを取り外すことで排出口よりナイフの点検が出来ます。ナイフ交換時は刈取り部全体を取り外して行って下さい。(「刈取り部の取り外し」23ページ参照)
- ・ナイフが動かないようにナイフと刈取りデッキの間に木片などはさみナイフを固定して下さい。次に、ナイフ中央のボルトを緩めナイフとブラケットを取り外して下さい。



▲注意！

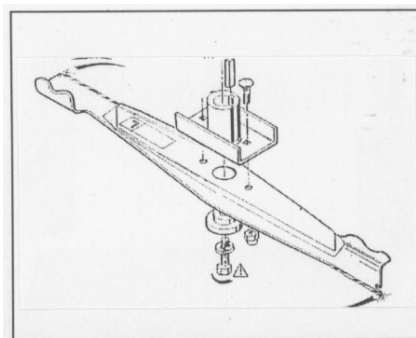
- ・右側ナイフの中央ボルトは左ネジです。
- ・左側ナイフの中央ボルトは右ネジです。
- ・中央ボルト部に使用しているスプリングワッシャーは純正の物を使用して下さい。他のワッシャーは絶対に使用しないで下さい。
- ・ナイフを点検する時は、ブラケット部のキーやブレード押さえ等も点検して下さい。



・ナイフはナイフブラケットにシャーボルトにて固定されています。
シャーボルトは、ナイフが回転中ナイフに異常な衝撃等が加わった場合、ナイフ軸、ベルト、ベアリングを保護するため折れるようになっています。

・シャーボルトを取付ける場合の締め付けトルクは5 Nm(0.51kgf)
(ナイフのガタがない程度で十分です。強く締め付ける必要なし)

⚠注意！ シャーボルトは当社の純正品を御使用下さい。



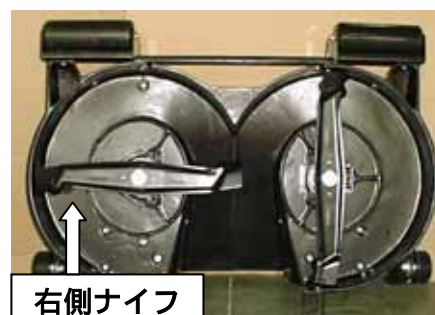
・ナイフ整備、交換後軸に取付けて下さい。

ナイフの左右を確認して下さい。

(ナイフの刻印を確認して下さい)

(R)----- 右側ナイフ (L)----- 左側ナイフ

ナイフ、ナイフブラケットを取付ける場合には、ナイフ軸の先端にグリースを塗布し左右のナイフに90度の相違をつけて取付けて下さい。



刈取り部を水洗いする場合

⚠注意！ 高圧洗浄機での水洗いはあまり推奨できません。しかしながら、御使用になる場合は以下の事項に御注意の上御使用下さい。

- ・エンジン部(キャブレター、エアークリーナー、マフラー、点火プラグ)及びバッテリー、ヒューズ等の電気系統には水がかからないようにして下さい。
- ・ベアリング部やHSTミッション部に直接水をかけないで下さい。
- ・水洗い後は、エンジン・ミッションの回転部より水滴を飛ばすため本機を作動させて下さい。

⚠警告！ 掃除を行う前(準備時)には、必ずエンジンを停止して下さい。

芝刈り後のデッキ内部を掃除する場合

- ・刈取りデッキ左右の端にホース連結カプラーがあります。(別売)
- ・連結カプラーにホースを取付けて下さい。
- ・刈高さを最低位置にして下さい。
- ・水を出しながらシートへ座り、エンジン始動後ナイフを回転させて下さい。
- ・清掃後は水切りのため2、3分ナイフを空回転させて下さい。



- ・刈取り部に付いている集草バッグ、ダクトを取り外すことで排出口よりデッキ内部を洗浄することが出来ます。(「刈取り部の取り外し」参照)
- ・刈取り部を取り外して洗浄する場合は、ナイフの状態や取付け部をチェックし必要に応じてそれらを交換して下さい。(「刈取り部の整備」参照)
- ・清掃後は水切りのため2、3分ナイフを空回転させて下さい。

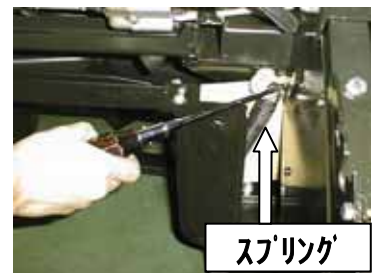
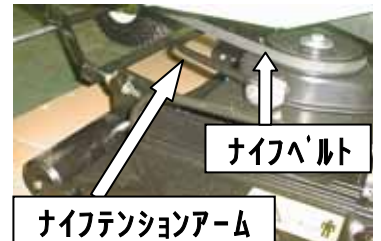
⚠注意！ 集草バッグ及びダクト部を取付けないとナイフは回りません。



刈取り部の取外し方法

⚠警告！ 整備を行う前にエンジンスイッチを切り、キーを抜いて下さい。又、手の保護のために作業用手袋等を着用して下さい。

1. 集草バッグ及びダクト部を取外して下さい。
2. 排出口アッパーカバーを取外して下さい。(右図)
(左右のM6ボルトを外すことで取外せます)
3. 刈高さを最低位置にして下さい。
4. 刈取デッキ左右にある保護カバーを取外して下さい。
(クリップ取付けなので、カバーを手前に強く引くと外れます)
5. 刈取りベルトを取外して下さい。
(エンジン部より刈取り部へかけているベルト)
ナイフテンションアームを手前に引くとベルトの張りが緩み簡単に外すことができます。
6. 刈高さを最高位置にして下さい。
7. デッキ取付けスプリング左右を右図のように取外して下さい。
8. 刈高さを最低位置にして下さい。
9. 刈取りデッキを保持しているリンクピン部から取外して下さい。
(リンク部は4箇所 safer ピンで固定されています)
safer ピンとワッシャーを取外し後方から前方の順で保持部から刈取りデッキを取外して下さい。
10. 刈取りデッキ本体を横方向に引き出すことで本機から取外すことができます。



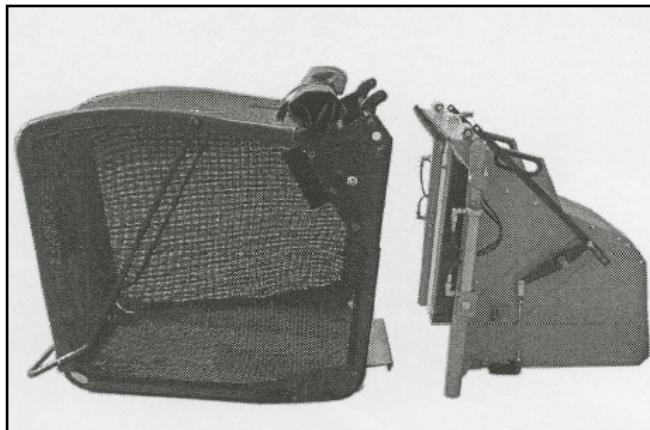
⚠注意！ 刈取りデッキを外したまま走行する場合、デッキ吊り下げ用のリンクをひもなどで吊り上げて必ず固定して下さい。
そのままにしておきますと、リンク部が地面と擦れて破損します。

集草装置

・集草バッグが取付いている集草装置は以下の2つの大きな構成部品からなります。

ダクト部 (刈取りデッキ後部)

集草バッグ部 (油圧にて上下します)



集草バッグの取付け

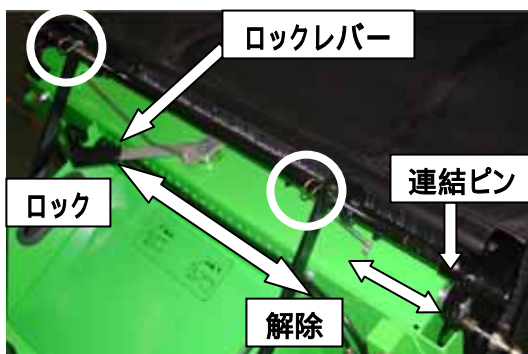
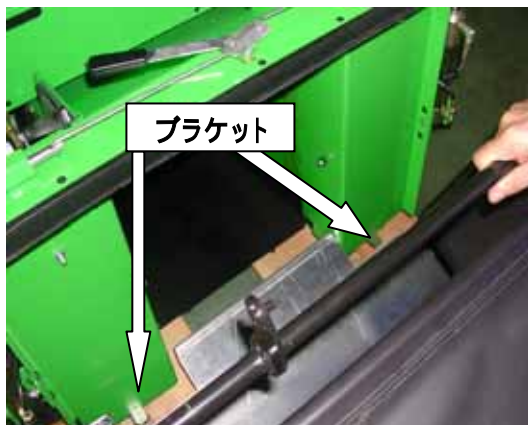
集草バッグ底板部をダクト後方下のブラケットに乗せ、それを支点にバッグを閉めるように持ち上げて下さい。

ダクト上部にあるロックレバーにて左右の連結ピンを集草バッグに固定して下さい。

左右のリンクバーを集草バッグに取り付けて下さい。

集草バッグ上下シリンダー左右を取付けて下さい。
(シリンダー先端部のスプリングキャップを押し下げ油圧シリンダーニップルに固定して下さい)

取外す際は、上記と逆の手順で行って下さい。



ダクト部の取付け、取外し（集草バッグを取外した状態にて作業）

刈高を最高位置にして下さい。

2本の油圧ホースを取外して下さい。

ホース先端 カプラーを手前に引き、ホースを取外して下さい。ホースを取外した後は、中の油が漏れない様にゴム栓 をして下さい。

⚠注意！ ホースの取外しをする前に、ホコリがホース内に入らないように掃除をして下さい。



コレクタースイッチのコード を引き抜いて下さい。

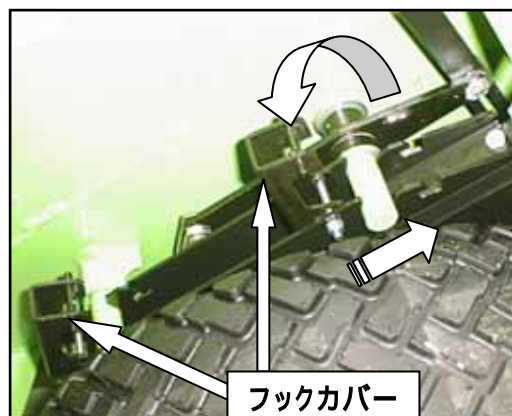
(ソケットを握り、引けば抜けます)

ダクト部左右にあるフックをスライドさせロックを解除して下さい。

ダクト部の取っ手を握り、上に引き上げるように取外して下さい。

取付けは、上記の逆の手順にて行って下さい。

⚠注意！ 取付ける際は、集草ダクト底板を持ち上げないと下のフックに取付けできません。



集草バッグの上下

・レバーを「上がる」側へ倒せばバッグが持ち上がりバッグ内の草を排出する事ができます。

・レバーを「下がる」側へ倒せばバッグが下がり通常の草刈状態に戻ります。



⚠注意！ ナイフが回転中にバッグを持ち上げると自動的にナイフの回転が停止します。草を排出後、バッグを草刈状態にするとナイフは自動的に回転し始めます。バッグが完全に閉じた状態でないとナイフは回転しません。

6. エンジン部の整備

⚠警告！ 整備を行う前にエンジンスイッチを切り、キーを抜いて下さい。火傷防止のためエンジンが冷えるのを待って下さい。又、手の保護のために作業用手袋等を着用して下さい。

オイルの交換

・エンジンオイルの交換は、初回は5時間後、それ以降は50時間運転毎にもしくはシーズン毎のいずれか早い時期を目安に交換して下さい。(アワーメーターにて50時間毎にオイル交換表示が出ます。2時間)

1. オイルを温めるために暖機運転をして下さい。
2. 本機を水平な場所に駐車して下さい。
3. エンジンを停止して下さい。
4. オイルドレンを開け、汚れたオイルを排出して下さい。
排出が終わりましたらドレンボルトを元のように締めて下さい。
オイルドレンの位置は、エンジンベースの裏側に出てきますのでエンジンベースの裏側より確認できます。

⚠警告！ 排出されるオイルは熱くなっていますのでドレンを開ける際には十分注意して下さい。

5. 新しいオイルを給油して下さい。
オイル注油口の栓を取外しオイルを約1.4Lほど入れて下さい。

給油栓がオイルゲージを兼用しています。

使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使いわけて下さい。

夏季(10度 以上)----SAE30・SAE10W30・SAE40

冬季(10度 以下)----SAE5W20・SAE10W-30

6. オイルゲージの「ADD」から「FULL」の間になければ「FULL」の目盛りまでオイルを補給して下さい。

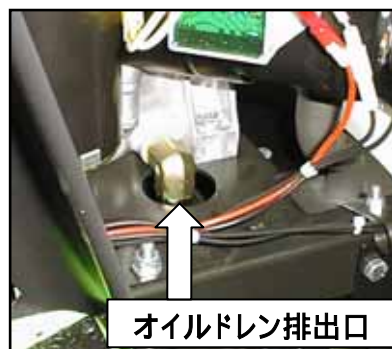
⚠注意！ オイルの量は、**オイルゲージを完全に締めこんだ状態**で確認して下さい。

- ・オイルを多く入れ過ぎないように、注意が必要です。エンジン故障の原因となります。
- ・交換後の廃油は適切な処理をして下さい。

オイルフィルターの交換

オイルフィルター交換は100時間運転毎又は、シーズン毎の何れか早い時期を目安に交換して下さい。

1. オイル排出後、新しいオイルを入れる前に新しいフィルターと交換して下さい。
2. 新しいオイルフィルターのガスケット部に、新しいエンジンオイルを塗布して下さい。新しいフィルターを手で回して取付、ガスケット部が取付面に接触し始めるところまでねじ込んで下さい。
更に、そこから3/4回転ねじ込んで下さい。
3. 注油口から新しいエンジンオイルを給油し、オイル量を確認して下さい。
4. フィルター取付面からオイル漏れがないか確認して下さい。
5. エンジン始動後2、3分運転した後、再度フィルター取付面からオイル漏れがないか確認して下さい。
又、再度オイルレベルを確認し必要に応じて注ぎ足して下さい。



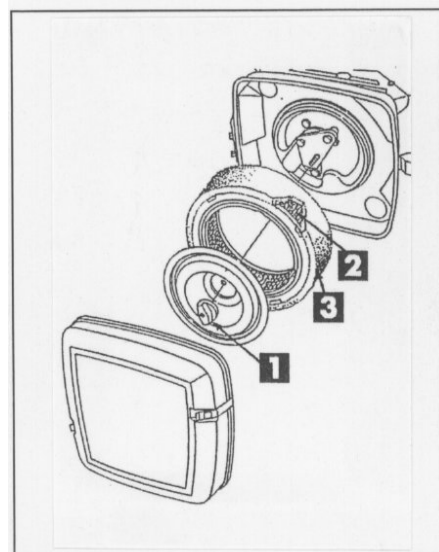
エアークリーナーの整備

(エアークリーナーの清掃、交換時期)

	(清掃)	(交換)
・フォームエレメント	----- 25時間毎	300時間毎
・ペーパーエレメント	----- 50時間毎	汚れがひどい時

チリやホコリの多い作業環境での使用時には頻繁に清掃して下さい。毎回使用前に点検することをお勧めします。

1. エアークリーナーカバーを取外して下さい。
2. ノブナット を緩め、フォームエレメント とペーパーエレメントを取外して下さい。
3. フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイルに浸し固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
4. ペーパーエレメントは軽くたたか、内部からエアー吹きしてホコリやゴミを落として下さい。



⚠️ 注意！ ペーパーエレメントは溶剤やガソリン等で洗わないで下さい。
ペーパーエレメントをたたく時には、ろ紙を傷つけないようにして下さい。

燃料フィルター

- ・エンジンの出力や回転数が不安定になってきたら燃料フィルターの汚れを点検して下さい。
汚れや詰まりがあれば交換して下さい。
- ・このフィルターは、分解掃除できませんので300時間毎又は、1年毎に新品と交換して下さい。

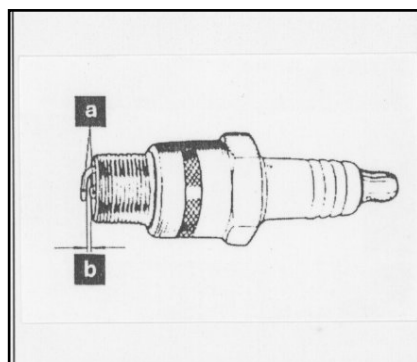


スパークプラグ

- ・スパークプラグの締め付けトルクは20Nm(2.04kgfm)です。

⚠️ 注意！ エンジンを完全に冷ましてからスパークプラグを交換して下さい。

- ・スパークプラグの点検、清掃は100時間毎に行って下さい。
- ・プラグレンチでスパークプラグを外し、電極部分 a 部にカーボンが付着していた場合は、ワイヤーブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ・中央陶器部にひび割れ又は、電極部に消耗が認められた場合には新品と交換して下さい。
- ・スパークプラグの電極隙間 b を0.7～0.8mmに調整して下さい。

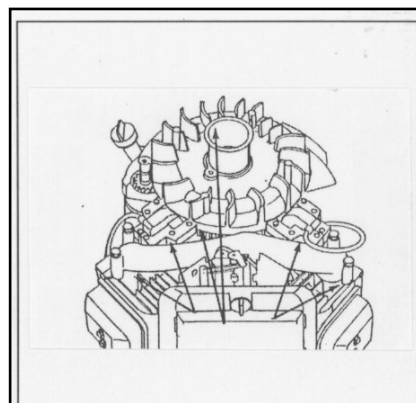


⚠️ 注意！ 締め付け時は、始めに手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
始めからプラグレンチを使用しますとネジ山を潰す恐れがあります。

エンジン冷却系の掃除のしかた

⚠ 注意！ 掃除を行う場合は、エンジンが完全に冷えてから行って下さい。

- ・常に始動の前には、回転スクリーン部がゴミや草で塞がれていないか確認して下さい。
- ・少なくとも年に1度又は、300時間毎にエンジン各カバーの内側や冷却ファンを掃除しオーバーヒートの原因となる草、わら等の刈りくず及び泥を取り除いて下さい。



バッテリーの保守

- ・12Vバッテリーはダッシュボードの下、カバー内部にあります。
- ・バッテリーは50時間毎に電解液の量、液の比重を調べて下さい。
又、液の量は常に上の印(MAX)と下の印(MIN)の間になるように蒸留水を補充して下さい。決してバッテリーからこぼれるほど注いだり、酸を加えたりしないで下さい。
- ・バッテリーの電極がさびていないかを点検して下さい。必要があれば電極をきれいに掃除し特別のバッテリー用グリースを塗布して下さい。

- ⚠ 警告！**
- ・いかなる時においてもバッテリーのコードを外す場合は始めにマイナス極、次にプラス極を外して下さい。
 - ・バッテリーに電解液を注ぎ過ぎた場合は、腐食防止のために、こぼれたところをよく濯いでさびを防いで下さい。

バッテリーの充電

- ⚠ 警告！**
- ・本機からバッテリーを取り外す時は、まずマイナス極から外し次にプラス極を外して下さい。
 - ・電解液の量を確認し、足りない時は蒸留水を補充して下さい。
 - ・充電器にバッテリーをつなぐとき：
 - *電 圧：12ボルト
 - *電 流：最大3アンペア
 - *時 間：(必要に応じて)12時間まで

- ⚠ 危険！**
- ・このバッテリーは充電中に爆発性のガスを放ちます。
 - ・裸火を避け、喫煙しながらの作業はやめて下さい。
 - ・バッテリーはよく換気された場所で充電して下さい。
 - ・バッテリーには硫酸を含んでおります。皮膚にふれると重傷の恐れがあり大変危険です。
 - ・バッテリーを取り扱う場合は十分な注意が必要です。
 - ・皮膚や目に触れた場合はすぐに水でよく濯いで下さい。
 - ・必要であれば医師に診てもらって下さい。
 - ・バッテリーはお子様の手の届かないところにおいて下さい。

<バッテリーの廃棄>

バッテリーには大変危険な物質が含まれています。環境保全のため、廃棄しないでください。廃棄に関する法令に従ってください。販売店が無料でバッテリーを引き取り、廃棄します。危険物の廃棄や収集に特化する機関へお渡しください。

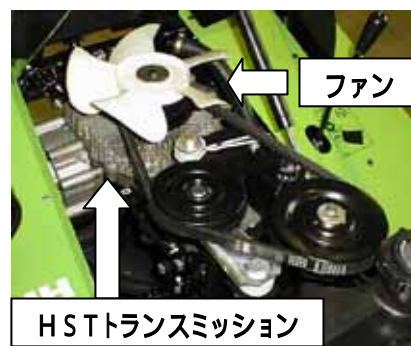
⚠ 注意! 放電中のバッテリーを後でもう一度充電することはできません。またその場合保証期間内であっても保証の対象にはなりません。

7. トランスミッション部の整備

⚠ 警告! トランスミッションの整備を行う前にエンジンスイッチを切り、キーを抜いて下さい。

HSTトランスミッション

- ・座席下のセンターカバーを持ち上げて開きますとHSTミッションが確認できます。
- ・本機使用の前には、常にHSTの冷却系に異常が無い点検して下さい。
 - *シート下の空気穴が目詰まりしていないか確認して下さい。
 - *クーリングファンが破損していないか確認して下さい。



⚠ 注意! オイルタンクに不純物が混入しないようにタンクキャップの周囲はこまめに清掃して下さい。

- ・オイルタンクキャップをきれいにした後でキャップを緩めて下さい。
- ・オイルの消耗が激しい場合は、油圧回路上に漏れがないか販売店にて点検して下さい。
- ・オイルゲージの上(緑)と下(赤)の目盛りの間になればオイルが付くようにオイルを補給して下さい。
- ・使用するHSTオイルは下記と同等の物を御使用下さい。
SAE20W20・SAE20・SAE30 タンク容量は 8 Lです。
純正オイルSAE20W20 2L補充用をお奨めします。



品番: 88 - 1080 - 026785 HSTオイル2L

〔オイル交換〕

- ・最初の100時間及び300時間毎又は、毎年1回の頻度で交換して下さい。オイルの汚れが酷くない場合は、補充だけで十分です。

⚠ 警告! HSTの油圧オイルは高温になります。オイル漏れが発生した場合、高温オイルが肌にあると火傷などの重症を負いかねません。オイル漏れには十分御注意下さい。
・本機使用後はタンクキャップを開ける前にオイルを冷やして下さい。

〔HSTオイルフィルター交換〕

- ・オイルフィルターは、HSTミッション左側にあります。
交換の際は、刈取りデッキ及びサイドフェンダー(左)を取外すことにより簡単に作業が出来ます。
- ・フィルター交換はオイル交換時に行ってください。
*汚れたフィルターを取外して下さい。
*新しいフィルターのガスケット部にオイルを塗布し手応えがあるまで手で締めて下さい。
*レンチで半回転増し締めします。
*エンジンを始動し、数分間運転後オイルの量を点検して下さい。
*最後にフィルター部よりオイル漏れがないか確認して下さい。



走行駆動チェーン

- ・後輪は、2本のチェーンで駆動しています。チェーンの張りは使用100時間毎又は、年1回点検して下さい。

〔チェーン張りの調整〕

- ・固定ナットをテンションローラーが動く程度緩めて下さい。
- ・ローラーを上げチェーンを張って下さい
- ・ローラーを上げた状態でナットを固定して下さい。
- ・チェーンは使用100時間毎、又は年1回冬の保管前に掃除し油を注して下さい。
- ・掃除、注油の際はチェーンカバープレートを外して行って下さい。



走行・ファンベルト

- ・エンジン下側に使用されているベルト

エンジン ←→ 中間プーリー **a** 走行ベルト

このベルトは、中間に油圧ポンプ駆動用プーリーがあり、このプーリーにてベルトを張っています。このベルトの張り具合は、初期伸び調整後100時間毎に点検調整して下さい。

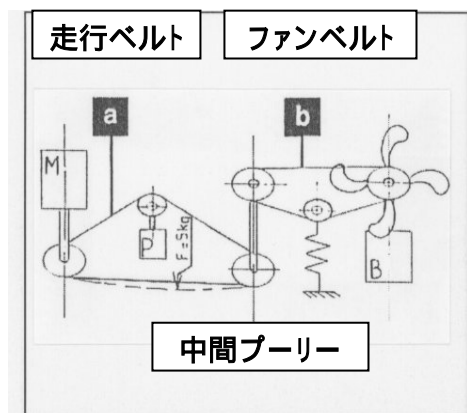
エンジン ←→ 中間プーリーの点検

ベルトの遊びが、油圧ポンプ駆動プーリーの反対側の位置で5kgの負担をかけて20mm以上の場合、又は、走行中ベルトがスリップする場合はポンプ駆動部をずらし張り直して下さい。

- ・座席シート下に使用されているベルト

中間プーリー ←→ HSTミッション **b** ファンベルト

このベルトはテンショナーによってベルトの張りを一定に保たれています。よって、ベルトの張りを調整する必要はありません。



ナイフ軸ベアリング部 (100時間毎)



後輪駆動用チェーン (注油)



8. 長期保管/冬季保管

- ・本機を、特に刈取りデッキを掃除し可動部分には油を塗布して下さい。
 - ・燃料タンクを空にして下さい。(タンクより燃料を抜き取った後、残った燃料が無くなるまでエンジンを運転して下さい)
 - ・エンジンよりスパークプラグを取外し、シリンダー内に少量(10cc)の油をプラグ孔から注入して下さい。
 - ・エンジンスイッチキーでセルモーターを回しエンジンを空回して下さい。
 - ・スパークプラグを取り付けて下さい。最初はスパークプラグを手で回し、最後にプラグレンチで締め付けて下さい。(プラグキャップは次回使用するまで取付けないで下さい)
 - ・バッテリーを取外して下さい。先にマイナス端子から外して下さい。
 - ・バッテリーを充電し、乾燥した涼しい場所に保管して下さい。
 - ・バッテリーは2ヶ月毎に再充電して下さい。
- ⚠危険!** ・このバッテリーは充電中爆発性ガスを発生しますので、火・タバコ・火花等の火の気を近づけないで下さい。
- ・バッテリーは希硫酸を含んでいますので、肌に触れると大変危険です。取扱いには、十分注意して下さい。万が一、目に入ったり肌に付着した場合は水で十分にすすぎ、必要であれば医師の診断を受けて下さい。バッテリーとバッテリー液は子供やペットの手の届かない所に保管して下さい。

修理について

下記の調整や点検が必要な時は、取扱店へ連絡して下さい。

- ・HSTトランスミッションの中立位置調整
- ・電磁クラッチの調整
- ・エンジンのオーバーホール
- ・下記部品の取替え交換
 - * タイミングベルト
 - * 油圧ポンプ駆動ベルト
 - * 後輪駆動チェーン
 - * 電気系統部品の点検
 - * 油圧部品の点検
 - * 取扱い説明書に表示のない分解の必要な部品交換又は修理

9.仕様書	
型 式	GH1810 Evolution
エ ン ジ ン	B&S 356777 0110-E1
形 式	4ストローク 垂直シャフト (OHV)
シリンダー	垂直V型2気筒
ボア×ストローク	72x77mm
排 気 量	578cm ³
燃 料	無鉛ガソリン 8リットル
出 力	18HP/3600rpm (13.2Kw)
潤 滑	潤滑方式
冷 却	強制空冷方式
スターター	12V セルスターター
発電装置	12V レギュレーター交換システム付
プラグ	14mm径 x 19mm [^] -ス (16mm) (RC12-YC)
電 極 幅	0.75mm
点火方式	電子点火方式
バッテリー	12V-24-30Ah
キャブレター	フロート式
燃料ポンプ	皮膜式ポンプ
燃料フィルター	75マイクロメタルフィルター
エアフィルター	スポンジ付 [^] - [^] -カートリッジ
回 転 数	3200回転
オイル容量	1.4 リットル + 0.2 リットル (オイルフィルター)
燃料タンク容量	8 リットル
刈 取 部	刈幅100cm
刃 数	52cm2枚刃 (対称形/4cm重なり)
回 転 方 法	内向き方向回転

10. 定期点検について

ページ	部位	始業前	50時間 使用毎	100時間 使用毎	300時間 使用毎 / 年1回	備考
16・26	エンジンオイル	オイル量点検	オイル交換			
27	エアーフィルター	フィルター清掃		フィルター交換		
26	オイルフィルター			フィルター交換		
28	冷却装置	エンジngril内の清掃			エンジngril内の清掃	
27	プラグ			掃除及び調整 必要時交換		
28	バッテリー		蓄電量・液量 確認必要時 補給、充電			
11	操作装置		正常運転確認 必要時調整			
27	燃料フィルター 及びホース			フィルター交換	ホースの交換	取扱店にて 調整
16・31	タイヤ空気圧	空気圧確認				
21	ナイフ	ナイフの状態 及びボルトの 締め具合				リミットマーク を越えたら 交換
32	ナイフ軸 ベアリング			注油(グリース)		
21	ナイフブラケット	タイミング及び ボルトの締め 具合				
	電磁クラッチ			隙間確認 必要時調整		取扱店にて 調整
30	走行ベルト (ポンプ駆動ベルト)		ベルトの張り確認			取扱店にて 調整
	タイミングベルト		ベルトの張り確認			取扱店にて 調整
15	集草バッグ 安全スイッチ	作動状態確認				
16・29	HSTミッション	オイル量及び 油漏れ確認		オイルフィルター 交換		交換は 取扱店にて

10. 定期点検について

ページ	部位	始業前	50時間 使用毎	100時間 使用毎	300時間 使用毎 / 年1回	備考
30	後輪駆動用 チェーン			掃除、注油 チェーン張り調整		
	走行ブレーキ	作動状態確認				
31	ステアリング		ステアリング連結 部ネジ締め確認 注油			
15	電気系統	安全装置の 正常作動確認				
	油圧ポンプ及び シリンダー	油漏れの確認				
	集草バッグ	集草バッグの 状態確認				